

# 【R7年度】重点目標の取組・概要（小中一貫教育の検討と推進[小中一貫教育推進事業]）

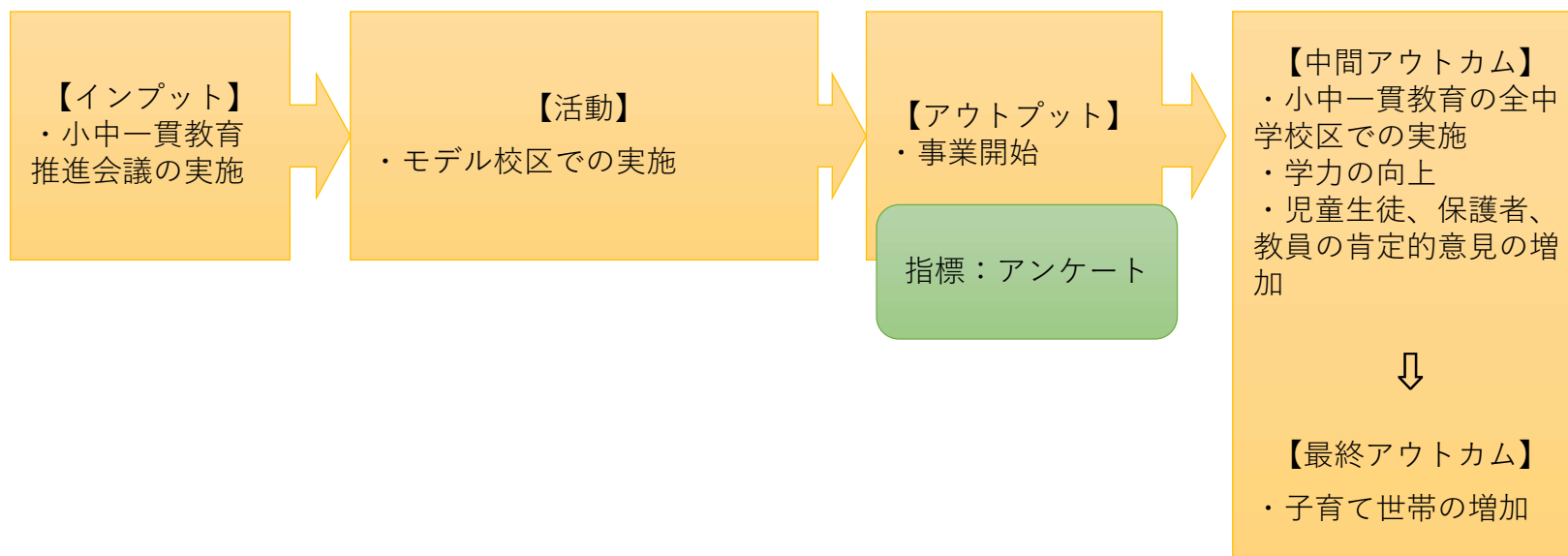
担当課（内線）	学校教育課 村上（5613）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年10月に、「岸和田市小中一貫教育基本方針」を策定。これをふまえ、令和3年度より「岸和田市小中一貫教育推進会議」を発足させ、小中一貫教育の推進に向けての協議を開始。</li> <li>協議を円滑かつ確実に推進させていくために、小中一貫教育の推進にあたって専門的な見地から助言をいただくための顧問（学識）を招聘。</li> </ul>	<p>【中期的(4～5年後)にめざす成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全中学校において、小中一貫教育を実施。</li> </ul> <p>【成果に向けての各年度の進め方】</p> <p>第一期（令和3年度～令和5年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「小中連携教育」の整理と、他府県の先進事例の整理（済）</li> <li>小中一貫教育推進モデル校区の設置（済）</li> <li>モデル校区における先行全面実施（済）</li> <li>中学校区ごとの「〇〇中学校区小中一貫教育推進会議」の発足。</li> </ul> <p>第二期（令和6年度～令和8年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一期における各中学校区の取組みと、モデル校区における取組みをふまえ、全面実施に向けた小中一貫教育計画を各中学校区で立案、順次実施。</li> </ul> <p>【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校の小中一貫教育の担当者による、校区ごとの会議の実施</li> <li>市内全体での連絡会における情報交換</li> </ul>
R7年度の事業費（内訳）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修報償費 70千円</li> </ul>	

R8年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修報償費 70千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育を具体的に取り組んでいる実施校区数 11校区（2024）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未達成の可能性はない。</li> </ul>

# 【R7年度】重点目標の取組・ロジックモデル（小中一貫教育の検討と推進[小中一貫教育推進事業]）

## ロジックモデル【事業立案時点】



財源	他団体の状況	その他（行政サービスとしての適正性について など）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 全中学校において、小中一貫教育を実施。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- 年2回の小中一貫教育担当者会及び小中一貫教育推進会議を実施。小中一貫教育における進捗や、成果と課題について協議した。
- 各校区においては、めざす子ども像を設定し、それに向かう重点取組を設け、実施をしている。

■ R7年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



第二期（令和6年度～令和8年度）

- 第一期における各中学校区の取組みと、モデル校区における取組みをふまえ、全面実施に向けた小中一貫教育計画を各中学校区で立案、順次実施。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R7年度実績値
○	小中一貫教育を具体的に取り組んでいる実施校区数	校区	0 (R3)	11 (R6)	11

## ■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- ・「新たな科」の導入については、岸和田市小中一貫教育推進会議の中で、基本方針の見直しを視野に入れ検討する必要があるとの意見が出て、次年度に協議を行うこととなった。



## ■ 課題分析

- ・各校種の教員間の連携や会議体の充実をさらにめざす必要がある。



## ■ ロジックモデルの振り返り

- ・モデル校区での実施を通じ、全校区へと取組みを広げることができている。今後は推進会議において、PDCAサイクルを回し、検証を重ねる。
- ・推進計画で示されている「確かな学力の定着」、「いわゆる中1ギャップの解消」について、緩やかではあるが、改善傾向にある校区もある。（不登校児童生徒数の減少など）



## ■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・指導主事が学校訪問を行い、各校府の好事例を収集し、実践事例を蓄積する。